

令和6年3月定例会一般質問

通告3

質問 女性の雇用創出と居場所作りを

答弁 施策展開を図る努力をします

8番 えぐち ともこ
江口 智子 議員

【質問：江口 智子 議員】

8番、江口智子でございます。女性の雇用創出と居場所作りについて質問させていただきます。

令和4年6月定例会で、人口減少に抗するための女性の包括支援について、1、女性デジタル人材の育成に関わる就業支援、2、女性の支援窓口の設置、3、女性支援事業への女性職員の育成・配置についての3件を一般質問しま

した。女性の支援窓口は、その後、平山議員の一般質問を経て、令和5年3月、保健センターに女性の相談窓口として開設されました。

今般、令和4年度の第2期まち・ひと・しごと総合戦略の効果検証報告書が取りまとめられたことから、その後の女性支援の進捗について、以下2点にわたって伺います。

1点目は、女性デジタル人材の育成についてです。まち・ひと・しごと総合戦略の令和4年度実績効果検証報告書には、石狩地方への10代から30代の女性の流出が特に多いことが改めて数値化されています。若年女性の転出超過は出生数の低下を招き、晩婚化、非婚化も進んでいることから、このままでは人口減少に歯止めがかからなくなることが懸念されます。出産を機に仕事から離れ、復職後は非正規雇用となる女性の割合が多く、やりがいや生活のために転出する人たちが中標津町内で生活できる環境作りをすることは喫緊の課題です。

今後は親などの介護のため離職する人も増加が見込まれ、一線を離れた女性が自宅からでもフレックスで柔軟に働ける場の創出が肝要であり、しかも、それなりの報酬が見込める仕事である必要があります。

前回質問した、国の女性デジタル人材育成プランは、不足するデジタル人材と、こうした女性たちのマッチングを図るもので、自宅にいながらデジタルスキルを身につける支援を受け、そのスキルを生かした仕事をテレワークで受注するもので、実施期間は令和6年



までとなっていますが、この件についての調査研究の状況について伺います。

【答弁：町長】

江口議員御質問の1点目、女性デジタル人材の育成について御答弁申し上げます。

議員御質問のとおり、特に若年女性の減少について強く懸念をしております。流入対策や定着に向けた対策は大変重要であるというふうに考えております。令和4年度及び5年度で実施しました人口減少対策に係る20代、30代の町民アンケート調査では、「就職、転職を考えた際に働いてみたい職業」に「医療・福祉・介護関連」や「美容・ファッション関連」と回答した女性が多く、それぞれ20%程度だったのに対しまして、「IT・通信関連」と回答した女性は5%程度でございました。

また「女性が再就職や起業にチャレンジするために必要」と思うことには、「保育体制の充実」や「時差出勤、短時間勤務、在宅勤務等働きやすい制度の充実」と回答した女性が80%程度だったのに対しまして、「再就職のための自己啓発セミナーや技術技能の習得機会を増やす」と回答した方は20%程度でございました。

デジタル人材育成は、地域経済の活性化、性別による固定的な役割分担意識の解消につながるなど、様々な課題解決に必要な取り組みであると認識しておりますが、調査の結果、デジタル関係への就職やリスキングに対する意識があまり高くないことを踏まえ、女性に限らず町民のデジタルに対する機運を高めることを優先に、今後も住民のニーズに対応した施策を展開してまいりたいと考えておりますので、御理解をよろしくお願いいたします。

【質問：江口 智子 議員】

8番、江口智子でございます。2点目は、女性の起業支援と居場所作りについてです。

中標津町には飲食、理美容、小売ほか、様々な分野で起業している女性が多く、こうした人たちに何らかのインセンティブを設け、町に人を呼び込む起爆剤としてはどうでしょうか。

昨年、栗山町を視察した際、町に活気を呼ぶため札幌などから雑貨等のクリエイターの女性を招き、町が借り上げた店のスペースを無償提供することで口コミが広がり、交流人口の増加につながっているほか、人脈と商才のあるクリエイターを町の移住担当や相談窓口を採用するなど、女性の力で町を盛り上げようとしていました。実際にクリエイターの店も視察しましたが、多くの女性が集う場となっており活気が感じられました。

中標津町でも起業した女性たちが町内外に交流を広げ、長く事業を継続できるよう、こうした人たちを大事にするべきと思います。具体的には、女性の総合窓口を活用した起業

相談、新規開業者への助成は町として行っていますが、お金ではなく、栗山町のように場を提供し、女性たちがつながる場を作ることを提案したいと思います。

あわせて、まちなかも女性一人で気兼ねなく過ごせるよう、カフェや飲食店など、お一人様歓迎のような雰囲気を作ってくれれば、女性が安心して出かけることができることから、町として商工会や飲食業連合会などに呼びかけをしてはいかがでしょうか。

【答弁：町長】

2点目の女性の起業支援と居場所作りについて御答弁申し上げます。

議員御質問のとおり、中標津町は起業する女性が多く、今年度の空き地空き店舗等活用事業補助金の活用実態としましては、6件中3件が女性でございます。過去5年においても20件中、女性が9件と男女差なく支援を行っている状況でございます。

また起業の内容を見ますと、女性の場合は美容業、ネイルサロン、菓子製造、生花販売、写真業と多様な視点の企業が見受けられます。このように既に活用されている補助金など、クローズアップし、広く周知することで女性の起業を呼び込むことが可能であると考えております。

また引き続き開催を予定しております男女共同参画推進に係るフォーラムを通じた交流の場の創出など、商工会等関係機関と情報を共有し、女性のみならず、気軽につながることで居場所作りにつきまして模索していきたいと考えておりますので、御理解をお願いいたします。

【質問：江口 智子 議員】

8番、江口智子でございます。再質問をさせていただきます。

令和5年度は6件中3件、過去5年においても20件中9件と、新規開業者のほぼ半数が女性であるとの答弁は、日本政策金融金庫総合研究所がまとめた2022年度新規開業実態調査における女性の新規開業者割合、24.5%の倍の数値であり、町内の女性たちがたくましく頑張っていることの裏づけとも言えます。

空き地空き店舗等活用事業補助金は、当初の店舗改装等の目的以外に、事業で使う機材等にも適用可能であると伺いましたが、拡充されていることを知らない町民が多いと感じます。中標津町は女性が元気な町であり、開業の夢をかなえやすいまちであることを町は空き地空き店舗等活用事業補助金を活用して、開業した人たちの声を通しながら、地域に根づいて活躍している様子を、補助金の制度とともに積極的にPRし起業を促すことが可能であり、こうした女性たちの声を聞き取りながら、さらなる支援の構築と人材発掘に取

り組むべきと考えます。

まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証報告書の総括では、若年女性の転出超過傾向が深刻であるとなっていますが、やりがいのある仕事と安定した収入があれば、女性の転出が改善できるのであれば、町は女性の仕事にもっとフォーカスすべきであり、ケーススタディー可能な情報提供とつながりの場を提供すべきだと考えます。

お一人様についても、一人で気軽に食事をしたり仕事をしたりできるような居場所作りが、人のつながりと女性の社会進出を促進すると考えますが、あわせて町長の考えを伺います。

【答弁：町長】

再質問に御答弁申し上げます。

確かにおっしゃるように、せつかく補助金で女性の方が多く起業されるという部分でございますので、しっかりとPRしていきたいというふうに考えております。また若年女性のやはり転出っていうのは非常に大きな問題でございます、これは調べましたところやはり、ほぼ札幌に集中している。しかし札幌も転出も多いということでありまして、なかなかその状況的にうまくいってないというのがありますから、さらにですね力を込めて、こういったあたりの施策展開をですね、図るように努力したいと思っております。

また一人での町の中でのいろんな活動の部分をですね、関係機関とですね、しながら、特に飲食業関係の方々にも、ぜひPRしたいというふうに考えておりますのでよろしくお願ひします。以上です。